

(様式第2号)

地域振興推進費事業計画・自己評価書 (実績)

令和7年4月8日

提出区分	実績	整理番号	3	課題区分	C		
横断的な課題	ハケ岳・霧ヶ峰の豊かな自然と共生する地域づくり						
地域重点政策	ハケ岳・霧ヶ峰の豊かな自然と共生する地域づくり						諏訪地域振興局
実施機関	諏訪地域振興局			担当課	所属	企画振興課	
事業名	縄文トレイルサイクリングコース開発事業			電話	0266-57-2901(内線2317)		
				E-mail	suwachi-kikaku@pref.nagano.lg.jp		
事業概要等	目的 (目指す姿)	平成30年に日本遺産に認定された「星降る中部高地の縄文世界」事業のPR体制強化を図る。					
	現状と課題	日本遺産の認知度向上のため、縄文文化に関心の薄い層にPRを行っていく必要がある。諏訪地域には多くのサイクリストが訪れているため、サイクリングを切り口に縄文文化に触れる機会を作る仕組みを検討し、令和4年度は諏訪湖エリア、令和5年度はハケ岳エリアでコース制作及びイベントを実施した結果、縄文文化に関心の薄い層が縄文文化に触れる機会を創出し、関心を高めるきっかけとできたことから令和6年度はエリアを拡大し、地域外の「星降る中部高地の縄文世界」認定対象エリアを絡めたサイクリングコースの制作を行う。					
	内容 (変更後の内容)	サイクリングを好む一方、縄文への関心が薄い層に博物館等を訪問してもらうことを目的に、サイクリングアドバイザーや地域の観光事業者等と協力し、縄文をテーマとしたサイクリングコースをモデル的に開発する。また、作成したコースについては、協力者の情報発信媒体へ掲載を依頼する等の方法でPRを行う。 【内容詳細】 1 サイクリングコース開発(諏訪～上田エリア) 外部アドバイザー等から助言を頂き、協力者と意見交換を行いながら、縄文関連スポットや観光地等を結び付けたコースの開発を行う。(6～8月) 2 コース試走会(2回:第1回 10月2日(水)、第2回 11月1日(金)) 開発したサイクリングコースの試走会を2回実施する。1回目は上記で仮作成したコースについて試走し、その後コースの見直しを行った上で、コースを仮完成させる。2回目については、コース作成に協力いただいた観光関係者等にご参加いただき試走会を行う。実施後に再度意見聴取をし、必要に応じてコースの見直しを行った上でコースを確定させる。 3 情報発信(3月) 作成したコースについて、令和4、5年度に作成したコースと合わせてマップ化し、各種SNSや協力者のHP等に掲載する他、観光案内所や日本遺産関連施設等への設置を依頼する。					
	事業期間	令和6年6月 ～ 令和7年3月					
事業費等	(単位:円)						
	事業を構成する細事業名等	実施内容	実績額	備考			
	縄文トレイルサイクリングコース開発事業	コース開発及び試走会におけるアドバイザー謝金	81,900	3,150円×26H(打合せ、試走会3回分)			
		アドバイザー旅費	12,393	試走会3回分(4131円×3)			
		レクリエーション保険代、マップ郵送料	5,607	保険:2,829円 郵送料:2,778円			
		マップ作成委託	400,000				
		使用料、自転車賃借料	93,800	7,000円×13台=91,000円 (試走会3回分、輸送料込み) 入館料:200円×14人=2,800円			
合 計		593,700					
指標及び達成状況	成果指標		目標値	成果	達成状況		
	コース開発数		1コース	1コース	● 達成		
	情報発信媒体への情報掲載		5件以上	6件	○ 一部達成		
	コース満足度調査 評価点数		平均3.5点 (5点満点)	4点	○ 未達成		
事業実績・成果	諏訪エリアを含むハケ岳西麓地域及び長和町・立科町エリアの縄文文化に縁のあるスポットをつないだサイクリングコースを作成し、10月には地域振興局職員(9月予定のところ雨天により延期)、11月に観光関係者を対象とした試走会を実施した。(参加者各5名) また、当コースを含めて令和4年度、令和5年度に作成したコースと併せて、初級、中級、上級としたサイクリングマップを制作した。完成したマップは諏訪地域、長和町・立科町地域の博物館及び観光協会に配布。(1,000部) 情報発信については、マップ完成の時期が年度末になった関係で依頼中であるため6件となったが、引き続き周知、広報を進め、掲載数の増加を図っていく。 試走会では満足度について目標値の3.5点を上回る結果となった。参加者から「普段通り過ぎるスポットにこんな面白い場所があるとは知らなかった」という感想を複数いただけたことから、自転車を切り口として日本遺産である縄文文化をPRするという目的に対して一定の効果を確かめることができた。						
今後の方向性	引き続き、日本遺産認知度の向上のために情報発信を継続していく。						